



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第10号

2023年12月9日

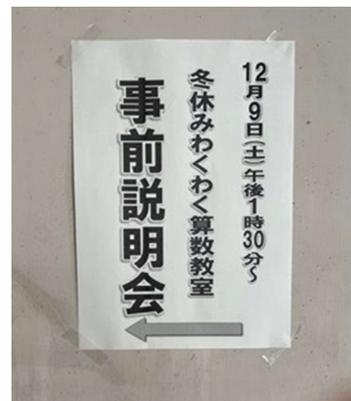
編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「冬休みわくわく算数・数学教室」事前説明会

12月9日（土）、片葩小学校で「冬休みわくわく算数・数学教室」の事前説明会が行われました。土曜日開催でしたが、7名のSPさんが参加してくれました。ありがとうございました。

この「わくわく算数・数学教室」開催前には、夏冬ともに必ず事前説明会を行っています。この事前説明会があるから、SPさんは安心して参加していただけているのではないかと思います。また、“教師を目指す学生さんにとって今後役立つように”という視点で行っていますので、守秘義務や心構え、子どもとの接し方での留意事項、個に応じた支援などの説明もしています。また、この事前説明会があるからこそ、SPさんは算数教室のねらいをよく理解してくれます。そして、よくねらいを理解したSPさんたちが、試行錯誤しながら子どもたちに真剣に向き合ってくれるので、質の高い算数教室が展開できています。子どもたちや保護者の方からも信頼の厚い、満足度の高い算数教室です。

今日は片葩小学校校長の貝沼眞幸先生も、SPさんに向けてお話をしてくださいました。一部、簡単に抜粋します。



「この片葩小では、SPさんが教員とは違った視点で子どもたちと関わってくれています。現場でも大変助かっています。今回の算数教室では、とにかく子どもたちに“学ぶことが楽しい”と思ってほしいです。小学校の算数は、実は難しいんです。今の時代、足し算や引き算など電卓やパソコンがあれば解決できるような内容を扱っています。だから、算数ができなくても別に生活するのに困らないんです。算数を生活と結びつけようということを目標にしてしまうとなかなか難しいですが、算数の授業（今回であれば算数教室）の“活動自体”や“学ぶこと自体”が楽しい！ということ、教師側（SPさん）も楽しみながら子どもたちに味わわせてやってもらえたらと思います。」



また、校長先生自作の具体物を実際を使って、「こんな支援をしてほしい」とのお話もいただきました。校長先生からこうしたお話を聞ける機会も、町外のボランティアではなかなかないことだと思います。学校・運営側からSPさんへの手厚い指導があるからこそ、SPさんからは子どもたちに温かい支援が返ってくるのでしょう。

また、片葩小学校のSPコーディネーターである中村浩二先生（元片葩小学校校長で、現在はSPコーディネーター兼授業アドバイザーをされています。）からも、

教師が“教える”教育は終わりました。今は、“子どもが学ぶ”教育です。“子どもが学ぶ”ために、教師は支援していかなければなりません。「どうしたらこの子が学べるのか？」を、今回の算数教室でもたくさん考えてみてください。「この教室にいる・来ることが楽しい」でまずはOKです。でも、そこから「算数を勉強することが楽しい」と思えるように、いろいろ試してみてください。



とのお話をいただきました。お二人の先生方のお話は、現行の学習指導要領にある「個別最適な学び」に通じるものです。この「わくわく算数・数学教室」を通して、みなさん自身も「個別最適な学び」とは何か？どんな支援が子どもたちにしていけるのか？たくさん考えて、現場で学ぶ機会になったらと思います。

今日の事前説明会では最後に、算数教室の準備もSPさんにお手伝いしていただきました。SPさんたちは、てきぱきと動いてくれました。両先生方のお話を聞いて、今日参加されたSPさんはどう思いましたか？私は、俄然“わくわく”した気持ちになりました。「冬休みわくわく算数・数学教室」まで残すところ、約2週間。初めてのSPさんも、経験したことがあるSPさんも、SPさん自身が“わくわく”した気持ちで迎えられるよう、私たち運営側も準備を進めていきます。今年も最高の冬休みになる気がして、今からとても楽しみです！SPさん、冬休みもよろしくお祈りします。

